



おのでら しげし
小野寺 重
(創政会)

- 奥州ブランド推進の取り組みは
- (仮称)奥州ふるさとツーリズム創設事業の取り組みを

質問 農家の販売額が落ち込んでいる。しっかりと所得を上げられる、売れる農産物の創出が求められている。奥州市内の産物をブランド化に向けて、生産者・行政・関係機関が一体となり取り組んでいくべきと考えるが。

市長 南部鉄器や岩谷堂箆笥、前沢牛、江刺リンゴ、江刺金札米などを全国にむけて、ブランド発信している。これら農畜産物ブランドを高いレベルで維持するための支援制度を確立していく。「奥州ブランドオンラインワンプロジェクト」を位置づけ、地域ブランド制度や登録件数などの成果指標を定め、生産者・農業団体・関係機関と一丸となり取り組んでいく。

質問 一般的にツーリズムとは体験型観光といわれている。さまざまな言葉をつけて区分しているようである。私のツーリズムは、まちづくりと観光を合わせた事業を取り組んで行くべきと考える。オール奥州として企画し市民総ぐるみで、取り組みれば



「ゆるキャラさみっとin羽生」に参加したマスコットキャラクター「奥州はっとくん」

交流人口が増大し活性化が期待される。取り組みの実態とどんなとこい奥州誘客促進会議の取り組みと成果はどうなっているか。

市長 グリーンツーリズムは平成22年に約3千人であった。平成23年は大震災で激減したが回復傾向にある。どんなとこい奥州誘客会議は市と観光関係14団体で組織し首都圏などで、観光物産のPR販売活動、誘客キャラバンなど50回をこえる活動を行なってきた。えさし藤原の郷や衣川荘では利用客の増加傾向がみられる。



かとう きよし
加藤 清
(爽志会)

- 地域経済対策・産業振興対策は
- 農業振興対策は

質問 疲弊が進む地域経済、産業振興対策をどのように考えるのか、基本的対策は。

市長 賑い豊さを実感できる町づくりを目指す中、起業家、事業者及び若手後継者支援を進める。商工業振興については、

商工会議所と連携を計り、総合計画戦略プロジェクトに重点をおき、企業誘致を進める。特に自動車関連産業に力を入れていく。奥州首都圏交流を積極的に進めつつ、担当部所の再編、地場産業の育成、内発型産業の育成も合わせて対応していく。また、小中学校統合による空き校舎については住民協議を行い、地域振興に続けていく。

質問 地域農業マスタープラン策定の進捗状況と今後の対策については。

市長 策定状況については着手したばかりであり、今後、地域との協議を行い実行性のあるプラン策定を進めていく。審査会において中心経営体、担い手等と協議検討を重ね、より具体的

のあるものとしていたい。また、圃場整備事業との整合性を計る観点から市独自の施策とリンクして進める。

質問 新たな農業振興の観点から6次産業化が求められているがその方策は。

市長 農業者と商工業者相互の連携を深め、新商品開発を進めると共に農家の挑戦意欲を喚起し所得向上を図る。施策の具現化を強力に進めるため新たな組織を創設する。



高生産性農業の展開に向け整備する
県営圃場整備事業(胆沢区南部田地区)